

表紙について 「有機給食の日」

寒さ厳しい2月8日、「有機の日」に合わせて、豊岡市内の小中学校で「市内産有機野菜」、「無農薬栽培によるコウノトリ育む農法のお米」を使用した学校給食が提供されました。

本市では、農業者、JA、市の連携によって、有機農産物の産地づくりが推進されています。近年、市内の有機野菜生産が盛んになり、有機野菜を学校給食に使用されるようになりました。

出石町の市立小野小学校では、5年生の教室で有機農業者の代表の皆さんと児童12人が一緒に給食を食べました。

昨年の秋は気温が高く、ダイコン、ニンジンが順調に大きくなり、食味は上々、みんな美味しそうに食べていました。

今後ますます「有機野菜」と「無農薬栽培によるコウノトリ育む農法のお米」の生産を推進され、子供たちのために、より安全で健康な「有機給食の日」が増えればいいと思います。

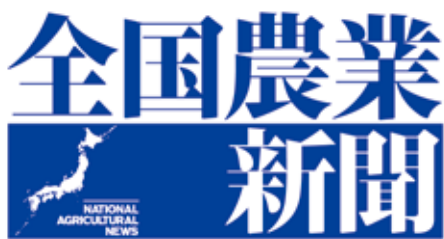
(推進委員 中務 喜紹)



生産者の皆さんと一緒に給食を食べました



有機農産物を使用した給食



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円 (送料、消費税込)

\*お申し込みは 農業委員会事務局または、地元の農業委員・推進委員 まで

編集後記

このたびの令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方々に、心よりのお悔やみを申し上げますとともに、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。また、農地のいち早い復旧・復興を願っております。

本市においても沿岸部に津波警報が出され、高台に避難され怖い思いをされたと聞いております。

北但大震災から99年、阪神淡路大震災から29年、台風23号から20年という節目の時期に差し掛かっております。減災・防災の観点から日頃の備え、予防が大切だと思います。さて、地域計画の策定にあたっては、集落によって事情は様々だと思えますが「地域の将来像」を皆で話し合う良い機会だと受け止めて、優良農地を守っていきましょう。

(編集委員長 西沢 泰裕)



農委だより第57号は私たちが担当しました。  
後列左から 河本委員、中務委員、桑田委員  
井谷委員、辻野委員、鳥尾委員  
前列左から 霜澤委員、早水委員、西沢委員  
高尾委員、平峰委員、和田委員